

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策No.312

記入日 平成 25年 7月 29日

点検日 平成 25年 7月 30日

施策名	鉄道新線開業等に対応した新市街地の整備		施策担当マネージャー	都市建設部次長	マネージャー氏名	小高 仁志	内線	407
政策展開の基本方向	3 「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして		政策	3.1 魅力あふれるまちづくりを進めます				
関連計画・根拠法令等	①都市計画マスタープラン	②国土交通省設置法 ・交通政策審議会	③	④				

1. 施策の目的・成果	(1) 施策の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。)						
	①東京10号線延伸新線 ②新駅設置が予定される中沢地区における新たな市街地整備						
	(2) 施策の意図(対象をどのような状態にするのか)						
	①東京10号線延伸新線沿線が事業化されています。 ②新駅が予定されている中沢地区において、新たな市街地の形成に向けた動きが始まります。						
(3) 施策の成果							
	指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績	目標値 (目標年度27年度)
施策	新市街地整備事業着手地区数	地区	0	0	0	0	0
基本事業	東京10号線延伸新線の事業化の可否		—	—	—	—	—
	新市街地整備事業着手地区数	地区	0	0	0	0	0

2. コストの推移	年度	単位	平成21年度 決算	平成22年度 決算	平成23年度 決算	平成24年度 決算見込み額	平成25年度 予算額	目標年度(年度) 今後の計画総額
	コスト・指標	千円						
	(1)総事業費 自動計算	千円	57	32	32	32	26	0
	①国庫支出金	千円						
	②県支出金	千円						
	③市債・その他財源	千円						
	④一般財源	千円	57	32	32	32	26	
(2)総所要時間(0.5単位) ①+②+③自動計算	時間 /年	104	96	904	820	860	0	
①正職員(時間内)	時間 /年	104	96	900	820	860		
②正職員(時間外)	時間 /年			4				
③非常勤職員	時間 /年							

3. コスト説明	(1) 市民一人あたりコスト	円	0.03	(2) 全施策中の順位	この施策は、全42施策中	41	番目にコストをかけています。
----------	----------------	---	------	-------------	--------------	----	----------------

4. 環境分析	(1)過去5年間で施策を取り巻く環境はどのように変わったか	・中沢地区の大柏川周辺において、一級河川大柏川第2調節池整備事業が実施されています。	(2)今後施策を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	・一級河川大柏川第2調節池の整備の進捗及び並行して進められている都市計画道路の計画の見直しなどによって、中沢地区のまちづくりが大きく左右する可能性があります。
	(3)施策について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見等)	・中沢地区における休耕田を有効に活用できる施策が求められています。また、地区内の通過交通への対応として都市計画道路の整備等の要望が強くなっています。	(4)国・千葉県の方針並びに関係法規等の変化	・東京10号線延伸新線事業について、国では「沿線の開発状況を見極めつつ整備を検討する路線」として位置付けをしています。

5. 施策を構成する事務事業の状況※施策中優先順位順に記載	優先度	事務事業名	担当課								
		公共交通機関の整備促進に要する経費	都市計画課	6.00	※事務事業数が2以下の場合には優先度評価をしていません						

6. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3:高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？市民等との役割分担は適切か？ ・東京10号線延伸新線並びにそれに伴う計画的なまちづくりは、国・県・隣接市である市川市、鎌ヶ谷市が一体となって後背地となる船橋市、松戸市、白井市、印西市とも強調しつつ、様々な調査・検討を行うなど広域的視野が必要であり、行政の関与が必要である。
	(2)目的妥当性	3:高い	(理由)施策の目的は政策にどのように結びついているか。 ・東京10号線延伸新線の整備は、広域的な交通利便性の向上や中沢地区を核とする交通の円滑化並びに計画的なまちづくりに大きく貢献します。
	(3)公平性	3:高い	(理由)対象は偏っていないか？対象を広げたり狭めたりできないか？ ・東京10号線延伸新線の整備により、新鎌ヶ谷駅を起点として都心に直結されることから、市民及び沿線住民の利便性が向上します。
	(4)有効性	3:高い	(理由)この施策を廃止した場合支障があるか。同じ目的を持つ他の施策はあるか？さらに成果指標を伸ばせないか？ ・廃止した場合には、本紙のまちづくりの方針を見直す必要があります。
	(5)効率性	3:高い	(理由)コストがかかりすぎているか？どうしたらコスト、所要時間を縮減できるか？ ・中沢地区における市街地整備においては、同地区の課題やまちづくり方針について、地区住民との合意形成の熟度を高めていく必要があり、その中で、コスト縮減を図っていく必要があります。
	(6)総合評価	6.精査・検証	(今後の方向内容) ・東京10号線延伸新線の整備は、課題はあるものの、沿線のまちづくりや市民の利便性の向上が図られる重要な施設であり、平成22年度開業した成田スカイアクセスの影響や沿線地域の開発動向を視野にいれながら、引き続き整備に向けた検討を進めます。

7. 改革・改善案	(1)改革・改善の方向	・東京10号線延伸新線は、第3セクター方式により将来、事業化する方向であることから、千葉県・市川市・鎌ヶ谷市で連携して事業化に向けた調査検討を行い、結果について判断する必要があります。
	(2)改革・改善案の概要 ※指標改善の根拠とコストを示す	・上位計画に基づき、実現性の高い事業計画を策定する必要があります。
	(3)改革・改善案の問題要因と克服策	・最新のデータを用いて、需要予測、採算性について、見極めながら取り組む必要があります。
	(4)改革・改善案導入の考え方 ※施策担当マネジャー所感	・東京10号線延伸新線の整備は、人口減少、少子高齢化の進展や社会経済情勢の変化などを総合的に捉え、整備時期や需要予測を見極めながら検討していくことが必要であると考えます。

8. 成果とコストの方向性	成果の方向性	向上			
		維持		○	
		低下			
		コストの方向性			
		縮減	維持	増加	

成果とコストの方向性に関する説明

東京10号線延伸新線の事業化に向けた調査及び活動を継続します。

※評価検討(1)～(5) 1:低い、2:普通、3:高い、4:あてはまらない
 ※総合評価検討(6) 1:終了、2:廃止、3:休止、4:縮小、5:改善、6:現状維持、7:拡充
 1 終了:事業が完了したので、終了する 2 廃止:事業を廃止する 3 休止:再開を前提に休止する
 4 縮小:好ましくない状況なので、規模を縮小する 5 改善:事業実施方法等について、改善した上、継続する 6 精査・検証:精査・検証の上、継続する
 7 拡充:重点的に資源を配分し、規模を拡大する